



手話だけでは伝えにくいことでも、身振りや口話など合わせて使う事でより伝えやすくなります

1月27日から29日の3日間、聴覚障がいについて理解を深め、筆談・空書・口話・身振り・手話などのコミュニケーションについて研修しました。

はが

聴覚障がい者への接し方を学ぶ

「社協の職員研修」

宍粟市社協では、業務後や休日を利用して、職員のスキルアップや意識向上のため自主研修を実施しています。今回は、日頃から障がいのある方に接する機会が多い（職場で働く）社協職員として、聴覚に障がいのある方への接し方について研修しました。



窓口の対応シミュレーションでは、講師の宍粟ろうあ協会 八木昌幸さんの質問に悪戦苦闘

※社協職員信条は、「宍粟市社協職員がめざすもの」として、職員の倫理綱領的な10の項目をまとめたもの。職員間での協議を経て、20年11月に理事会で承認されました。

（波賀支部 森井裕矢）

この研修会をうけて、波賀支部では普段から手話になれるため、朝礼のあいさつに手話をとり入れるなど工夫をしています。

こうした研修を積み重ねること、※社協職員信条にある「自己研修に励み専門的知識、技術の向上に努め」その「知識や技術を地域福祉の向上のために活かす」を実践し、「だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくり」につなげていきます。

ちくさ

「会いにきたで」

ひとり暮らしのついで

2月27日（金）、第2回ほえみ会（一人暮らしのついで）を開催しました。

当日は、雪がちらつく肌寒い天気でしたが、「ふだん出会わなでなあ、会いに来たんじゃ」「あの人来とつてか」と40名の参加がありました。お弁当を食べた後も会話がはずみ集いは始まりました。

午後からは室駐在所の友重巡査部長による振り込め詐欺防止の話を聴きました。

また、「出かけるときはご近所に声をかけて出かけることが大切。地域のネットワークが犯人を寄せ付けない秘策。気軽に交番をのぞいて声をかけ



町内の犯罪事例や振り込め詐欺の手口を聴きました。

けて下さい。」と留守中の防犯についても指導をうけました。

昨年が続いての講話でしたが、地域の人などで顔を覚えることも大切だと思いました。おやつは、ボランティアさんの手作り『樗もち』。お弁当を食べた後でしたが、美味しくいただきました。

ゲームをして笑い、また歌って笑い、本当に楽しく過ごしていただきました。別れ際には「楽しかったで、また来るでな」と次の出会いを楽しみに帰って行かれました。

（千種支部 小原志のぶ）



ジャンケンゲームで勝負！



千種保健福祉センター内のデイセンターにて